

制服の
異なる姉妹
風光る 忠文

神戸市会議員

ただ ふみ

うらがみ忠文新聞

2021年
春夏の号

「私」ではなく、「私たち」で生きよう!

「お医者さんは、病気を診てくれたけど、看護師さんは、ぼくを診てくれた。」
これは、ある中学生の「詩」です。
皆さんの感想は、いかがですか。
痛い、寝汗をかいた、お腹が空いた、という訴えに「痛いん」「汗びっしょりやねえ」「お腹が空いたん。良かった。元気になつてきたんやね」と、優しい言葉を返して下さる看護師さんの笑顔は、人生の宝物です。
もちろん、冷静で熱意あるお医者さんも、ありがたい存在です。
ですが、「いいお母さんやねえ」「つらいことはない」生活のすべてに関心を持って下さる看護師さんには頭が下がります。
コロナ禍の今、検査や病床も大切ですが、区役所や市役所は「まち」の優しい看護師さんであって欲しいと思われませんか。
私たちも生活に気を付けて、お互い様精神を発揮し、自分中心の「私」ではなく、「私たち」という心で歩み合いたいものです。

うらがみ忠文

- ・1969年 慶應義塾大学法学部政治学科卒
- ・元 大丸神戸店「くじゃく通信」編集長
- ・元 神戸市立御影北小学校 PTA会長
- ・NPO 障がい者就労支援作業所 副理事長
- ・1995年 神戸市会議員初当選
- ・2019年 神戸市会議員7選



JR住吉駅山側・シーア玄関前。みなと銀行住吉支店東隣り。お気軽に!

●「うらがみ忠文ネットワーク」談話室

〒658-0051 神戸市東灘区住吉本町1-7-3 矢野ビル3F

TEL/FAX 078-841-1042 Eメール tadafumi@uragami.jp

うらがみ忠文

検索

●〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1 神戸市会「つなぐ」議員団 浦上忠文発行 TEL 078-322-5849

【議会報告】 私の、本会議一般質問の要旨。

■浦上忠文の質問

コロナ禍の今、「貧乏脱却」が、今日のテーマです。

1997年をピークに国民所得は伸び悩み、格差が広がる中、誰もが安心して人間らしい生活を送ることが出来る社会を提案したいと思う。あらゆる人々が将来の不安から解放され、子育て、教育、介護など誰もが必要とする「ベーシックサービス」を、多くの人々が享受出来る社会を目指すべきではないか。

そのためには財源が必要だが租税負担率と社会保険負担率を合わせた国民負担率を整理して、OECD ヨーロッパ先進諸国の平均ぐらいまでに調整することは、十分出来ることではないでしょうか。

市長の見解を求めます。

★久元市長の答弁

国民負担率については、国会で議論して頂きたい。

格差も広がっていることから、受益と負担のあり方の議論を行いながら、市政運営にあたっていきたい。

浦上議員からは、従来から「お互い様」ということを指摘いただいているが、基本的には、私も同じ思いだ。

市民が、どういうふうになれば助け合って生きることが出来るのか、市政の政策を改善していきたい。

■浦上忠文の再質問

負担率は国のことだと言われるが、私の周りには、貧困や障害で働けない方がたくさんおられます。そういう人たちに、介護や医療が必要になったときに生活の最低のベースを用意して差し上げると言うことは、国や神戸やと言ってる場合ではないのではないのでしょうか。

★久元市長の答弁

基礎的なサービス水準は国の制度で決まっており、基礎自治体の役割は、本当に 社会に背を向けながら助けを待っている人も含めて、一人一人に寄り添った行政サービスをどう展開するのかに知恵を出して行くことだ。

浦上議員の提案にしっかり対応していかなければいけない、という問題意識は共有させて頂く。

同時に、競争と相互扶助のバランスをどうとって行くのかも、いろいろなご意見を伺いながら市政運営にあたっていきたい。

弱者を助ける、から
弱者を生まない社会を
神戸から創ろう！ 浦上忠文

